

## 令和5年度 第3回白馬高等学校学校運営協議会 議事録（概要）

- 1 日時 令和5年（2023年）12月20日（水）15時00分～16時30分
- 2 場所 白馬村ふれあいセンター学習室
- 3 出席者 委員11人（白戸委員、草本委員、富原委員は欠席）

ほかに、長野県教育委員会より2人  
主幹指導主事 中島秀明  
主任指導主事 有坂清明  
小谷村副村長、同教育課長  
白馬山麓事務組合高校支援係2人  
白馬高校魅力化コーディネーター  
白馬高等学校教頭、事務長



### 4 内容

- (1) 開会の言葉（藤森教頭）
- (2) 長野県教育委員会挨拶（中島主幹指導主事）

- 12月16日に白馬村内で発生した土砂災害で被害に遭われた皆様には、一日も早く元の生活に戻れるようお祈り申し上げます。白馬・小谷両村におかれましては白馬高校のために日頃から厚いご支援をいただきありがとうございます。
- 7月の第2回運営協議会は、文化祭中ではありましたが、生徒のみなさんと意見交換を行うことができました。生徒の目線からの率直なご意見をいただき大変参考になりました。
- 今年度は、生徒募集活動について第1回の協議会で目標を設定し、委員のみなさんにも積極的にご尽力いただきました。年が明けますといよいよ前期・後期の選抜があります。広い範囲から多くの生徒が白馬高校を志願してくださることを期待しています。
- 先日、高校生ホテルの様子をニュースで見ました。生徒にとっては貴重な経験や気づきが得られたのではないかと思います。このような地域に支えられた特色ある取り組みが白馬高校にはたくさんあるのだということがよくわかりました。これらの取組がさらに広がっていくことを期待しています。本日も実質的な議論が交わされますよう宜しくお願いします。

### (3) 学校長挨拶（関校長）

- はじめに、先週のみそら野別荘地の災害で避難を余儀なくされているみなさんに心よりお見舞い申し上げます。丸山村長様はじめ白馬村の関係者の皆様には、対応でお忙しい中のご出席ありがとうございます。
- 高校再編基準の2年連続該当回避とさらなる魅力化の推進を目標に掲げて始まった今年度も瞬く間に9カ月が経ちました。この間、両村から多大なご支援をいただきながら、全国募集活動や寮生・下宿生への生活全般の支援、学校教育活動の魅力化推進に全力を挙げて取り組んできました。2月1日には前期選抜試験が行われますが、大勢の受検生が集まることを期待しています。
- 10月には白馬村が国連の世界観光機構によってベスト・ツーリズム・ビレッジに選ばれるというニュースがありました。あらためておめでとうございます。このことは、今後の生徒募集にも追い風になると思います。今まで以上に地域のみなさんと連携を深めて、地域・学校それぞれの活性化に努めて参りたいと思います。
- 本日の会議では、学校からの活動報告の他に、学校の新たな魅力づくりとして単位制の導入や中高の連携のあり方について皆様からご意見を伺いたいと存じます。また、生徒の活動報告として大糸線存続に係る取り組みの発表も用意しています。限られた時間ですが、実りのある会議となるよう宜しくお願いします。

### (4) 報告事項

<武田議長> はじめに学校からの報告をお願いします。

<関校長>

#### 1 募集活動について

- 今年度の活動は資料26ページのとおりです。これ以外に個別の学校訪問の対応をしており、今週末にも3名の生徒が来校する予定です。11月には、『峰竜太とみんなの信州』というラジオ番組の中で15分程度、生徒がパーソナリティとの対話形式で白馬高校を紹介する機会がありました。

- 県外募集では、63 人の中 3 生とその保護者と懇談ができました。居住地別には表のとおりで、コロナ前の状況にほぼ戻った感じです。この中から 20 人以上の受検を期待しています。県内他地区では 31 人の中 3 生とその保護者と懇談しました。うち 10 人がスキー部に関心を持っています。地区内の志望状況は、中学校での第 2 回目の希望調査の結果を待ちたいと思います。地区内の中学卒業生数は前年比で 27 人減少という状況ですが、例年並みの 35 人は確保したいと思っています。ただ、統合した大町中学校での進路指導の様子が少し以前と変わった感があり懸念しているところもあります。
- 学校の教育活動は、資料 5 ページから写真入りで主なものを載せています。地域との関わりを大切にしながら取り組んでいます。キャリア教育ではグローバル講演会、就労体験、教科学習では、大糸線フィールドワーク、シンガポールとの国際交流、小谷中学生とも連携した理科の地域巡検、観光ガイド実習、北アルプス山麓ブランド講義。地域交流では、白馬ストリートフェスや BMW イベントでのボランティア活動や、地域の方のお話を聞く地域人講座などを続けています。資料 9 ページの断熱プロジェクトは、県からも予算をいただけるようになり、地域の工務店や事業所さんのご協力で充実した取り組みとなっています。過日の高校生ホテル実習には、委員の皆様にも足を運んでいただきありがとうございました。学校の中では見せないような表情を見せてくれる生徒もいて、やって良かったという思いです。
- 資料 10 ページは今後の予定ということで、明日は白馬フォーラムで学習成果の発表があります。新潟県立糸魚川高校生の参加も継続しています。3 月にはニュージーランド語学研修を再開し、9 名が参加予定です。2 月にはマレーシアの高校生とのスキー交流も計画中です。
- こうした活動に対して、生徒や保護者がどう受け取っているかのアンケート結果を資料 18 ページに載せてあります。アンケート項目は、①地域と連携した教育活動、②安心で安全な学校づくり、③わかりやすく充実した授業であり、保護者も生徒もおおむね肯定的な意見でした。①と②では昨年よりも良い評価の割合が増加しています。一方で、③については課題もあり、地域学習や外国人との交流といった特徴ある授業での満足度を高めていきたいと思っています。保護者からは分からないという回答が一定数あるので、学級や学年での懇談の機会を増やすとか、オンラインを活用して参加しやすい環境をつくるなどの工夫をしたいと思っています。ホームページの情報は、保護者からの指摘もあり、できるだけ更新の頻度を上げ、私の「校長ダイアリー」をはじめ教職員からも写真を使った見やすい形での情報発信に心掛けています。また、白馬村の広報に紹介記事を掲載していただいています。
- そのアンケートとともに、白馬高校に期待する指導についてお尋ねしました。資料 21 ページにあるとおり、社会で役立つ教養や基礎学力、実践的な英語力、対人コミュニケーション力をつけて欲しいという項目が高くなっています。授業や課題活動を通じて努力していきたいと思っています。公営塾の存在そのものはほぼ認知されていますが、塾生がそれほど多くないこともあって、中身についてはよく知られていないのが課題です。
- 資料 23 ページは、現時点での 3 年生の進路状況です。2 年ぶりに公立大学への合格者が出ました。これから 8 人が四年制大学を一般受験します。就職希望者は 10 人全員が内定しました。うち 4 人はホテル関係です。

<武田議長> ただ今の学校からの説明に関して、質問・ご意見がありますか。

<中村義明委員> 明日の白馬フォーラムの時間を教えてください。

<関校長> 9 時 30 分から昼頃までです。午後から学校で糸魚川高校との探究交流会があります。

<柴田委員> 海外研修では、英検準 2 級とかの一定の条件の下で組合から援助はなかったですか。

<関校長> 援助いただいています。

<柴田委員> いくらでしたか。

<松田委員> 白馬・小谷村出身の生徒は上限 20 万円、他地区の生徒は 10 万円です。

<武田議長> 続いて白馬山麓事務組合から報告をお願いします。

<松澤委員>

- 資料 27 ページに募集活動の詳細をまとめています。これまでと変わらず行っているのが、銀座 NAGANO と名古屋、大阪での説明会、地域みらい留学での説明会です。その他に今年度は、名古屋地区で生徒の出身校を訪問したり、愛知、静岡、岐阜でスキー競技者がいる中学校を訪問したりしました。また大阪府中学校校長会を通じて 459 校にパンフレットを郵送したほか、JR 名古屋、豊橋、新大阪、新神戸、京都駅周辺でスマホオリコミの広告を出したところ 351 クリックがありました。

## (5) 審議事項

<武田議長> では、審議事項に移ります。はじめに、関校長より説明をお願いします。

### < 関校長 >

- 今年度、支援系の皆さんと学校でやれることはほぼやってきたという思いを持っていますので、今は一人でも多くの中学生に来てもらいたいと切に願っているところです。ご承知のように中学卒業生数の減少はますます進み、厳しさは今後さらに増していくわけですが、白馬高校でしかできない教育活動を地域の皆様とともに継続していくことで地元の中学生たちをしっかりと繋ぎとめたいと思います。
- コロナ禍があけて、県外からの問い合わせは順調に回復してきていますが、富山県をはじめ県を挙げて全国募集に取り組む競争相手も増えています。こうした中で県外生の飛躍的な増加は見込めませんが、学ぶ意欲と明確な目的意識を持った生徒を県外から一定数確保していく必要があります。
- 県内外の中学生や保護者からの信頼を得て、今後もこの地に所在する独立校として教育活動を継続していくには、さらに新たな魅力づくりが欠かせない状況になっています。社会環境も急激に変化し、子どもたちを取り巻く状況も多様化し複雑化しています。子どもや保護者のニーズも多様化しています。近くを選べる選択肢がいくつもある所とは違って、こうした地域にある高校ほど、多様なニーズを満たせる環境を持っていなければいけません。
- 今の白馬高校をさらに魅力ある学校にしていく上では、学びの幅を広げていくとか多様な生徒が学びやすい環境を提供していくという観点が必要になります。これまでの話にも出ていましたが、単位制とか連携型の中高一貫制の導入は、魅力化の一つとして検討する価値があると思います。
- 単位制というのは大学を思い浮かべるとわかりやすいでしょうか。資料1をご覧ください。そこにメリットとデメリットをあわせて挙げてあります。県内では軽井沢高校がモデル校として取り組んでいるところですので、それを参考にしながら白馬高校らしい方向を考えてみたいと思います。
- 単位制のポイントは、履修認定と修得認定を別に考える所にあります。定時制や通信制はすでに単位制になっています。現在の白馬高校では履修と修得を一致させ、学年制の単位認定を行っていますので、各学年で1科目でも修得できない科目があると留年になってしまいます。それだけではなくて、留年すると修得できた単位まで無効になってしまうわけです。それが単位制だと1度取った単位は認定されるので、3年生までは行けることとなります。本校に限らず今は様々な課題を抱えた生徒が入学してきていて、1学期の段階ですでに出席が足りずに単位を落とすかも知れないという心理的圧迫感の中に置かれている生徒が少なからずいます。せっかく入学しても途中で転学していく生徒も一定数いて、年度中での在籍生徒数減少の大きな要因となっています。転学先は通信制です。その方が自分のペースで学びやすく、修得した単位も無駄にしないで済むからです。
- 単位制だと自分の興味や関心に基づいて科目を選べること、それによって多様な進路やニーズに応えられること、科目によっては授業で異年齢の生徒が混在することで互いに刺激になること、前期・後期の半期ごとに単位認定が可能になるなどのメリットがあります。留年しなくても済む、頑張り次第で全日制の学校を卒業できる可能性が開けるといったことで、先のような生徒の不安をいくらかでも解消できれば良いと思います。一方で、自己管理ができない生徒には、必要な単位が取れずに卒業が遅れることもあるなどのデメリットもありますが、この仕組みがうまく機能するように考えたいと思います。
- 令和4年度入学生から単位制を導入した軽井沢高校の様子が資料2枚目にあります。軽井沢高校では、選択必修や自由選択の科目を48単位分設定してあり、生徒が自分でデザインした学習プランに沿って必要な科目を選択できるようになっています。それ以外の必修科目と合わせて3年間で卒業要件とされる単位数をクリアすれば卒業できる仕組みです。
- 学校の授業だけでなく学校の外で学んだこと、例えば、継続的なボランティア活動や校外における顕著な文化活動やスポーツ活動、検定資格取得などを単位認定できる仕組みも既にありますので、これらを組み合わせればさらに多様な学びが可能となると思います。
- 魅力づくりの一つとしてこういった仕組みの導入はいかがでしょうか。この後、皆様から、それならこういう授業を取り入れたらどうかとか、地域としてはこんな協力ができるからこんなことをしたらどうかという意見をいただければありがたいです。

< 武田議長 > 今のお話に関心がある質問やご意見があればお願いします。

< 丸山委員 >

- ボランティア活動とか、スポーツ活動や就労体験や高校生ホテルなど、白馬高校ですでに取り組んでいる活動が単位認定の対象になるということですね。

< 出口委員 >

- 2週間ほど前にドルトン東京学園中等部高等部の校長のオンラインセミナーを受けました。そこは学力だけではなくて非認知能力、自己肯定感や自己有用感の向上に力を入れている学校なのですが、中

等部高等部にハウスという他学年が混じったホームルーム集団があったり、単位制のように自分のシラバスを作りながら自分で学んで行くという方式だとか、ラボラトリーと言ってグループで協働的な学びとか話し合いをする画期的な授業をやっていて、その結果、認知能力だけでなく非認知能力がどんどん上がっているということでこの学校がブームになっています。これから単位制のことを考えていくには、県内の軽井沢高校だけを見ていくのではなくて、広く県外の先進的な取り組みも見ていく必要があると思います。

<中村義明委員>

○単位制の話はこの前教育長に要望活動に行った時にも出ていて良いことだと思うが、進めるにあたっては挙げられているデメリットも熟慮する必要があるだろう。単位制の仕組み自体はいいことだが、多様な生徒が集まってくる中で、こういう生徒に受検してほしいというような選考の基準を県でもしっかり示して欲しいと思う。

<武田議長>

○単位制になれば教員の加配などは期待できるのでしょうか。美麻小中学校では特認校制度ができて10年経って小中合わせて100人になったが、だんだん内容が曖昧になってきていて、先生方の指導が大変になってきています。小中学校でも、やりたいことはやるが、そうでないことは一切やらないという子が増えている状況で、入学した生徒みんなが興味を持って学べる状況に持っていくにはどういった観点で何をすればいいのか、県の事務局の方にお聞きしたいです。

<中島主幹指導主事>

○教員の加配については県全体で考えていかなければならないことなので、ここで特にお話できることはありませんが、単位制はこれから増えて行くと思います。その中でどういうあり方がいいのかということは県としても一生懸命考えているところです。中村村長様が話されたように、世の中が多様化して、様々なニーズをもった生徒さんが増えていて、学校全体でどういう支援体制をとっていくのが課題となっています。先生方の中でどういう工夫でやっていくのか、たとえばソーシャルスクールワーカーやスクールカウンセラーを取り入れながら教育事務所と相談するとか、様々な支援の体制も考えられますので一緒に考えていきたいと思っています。

<出口委員>

○個人的には、中学校時代にたくさん欠席していても、オンラインで学ぶ意思があるという、通信制のようにね、そんな子どもの学習の機会は保障すべきだと思います。

<笹川委員>

○質問ですが、学校間連携というのは例えばどんな形が考えられるのですか。

<関校長>

○学校間で約束を作って取り決めに結んだ相手の学校で受けた授業の単位を自分が在籍する学校で認定するというものです。今後は、授業配信ができるようになって遠く離れた学校の授業も受けることも可能になっていくと思います。

<笹川委員>

○生徒がその学校へ実際に1 Semesterとかの間通って授業を受けるとかもあり得るのですか。

<中島主幹指導主事>

○今、文部科学省の中教審ワーキンググループで高校の在り方について議論していて、その中間のまとめが最近出ました。その中で、そういうことも考えられますねという報告がありました。今後はICTを使って他校の先生が配信する授業を複数の学校で受けることもできるようになるでしょう。

<笹川委員>

○仮に単位制になった場合、今ある普通科と国際観光科の授業の垣根は無い状態になりますか。

<関校長>

○基本は自由選択なのですが、実際には国際観光科は専門学科なので専門科目を25単位以上必ず入れるという制限がありますし、普通科も卒業単位にできる学校設定科目の単位数は20単位までという上限があります。

<太田委員>

○子どもたちに自立した考え方が持てるというのはいいが、単位制になるとクラスメイトの繋がりが薄くなるかもしれないということだと、高校生活がいままでと変わってしまうのではないかと心配もあります。先生方にはちゃんと個々の生徒を見てもらえて、高校時代の集団としての思い出づくりができる体制があるといいと思います。

<柴田委員>

○全国にこの制度の学校は何校くらいありますか？

<中島主幹指導主事>

○少ない数ではないと思います。

<柴田委員>

○昔、白馬高校でアルプスコースというのがあった頃は、生徒がたくさん集まったように思います。良い仕組みならどんどん取り入れていけばいいと思います。地元生にも得になることがいいです。

<相沢委員>

○単位制にはこれまでとまた違う魅力があって、生徒の選択が増えていくのはいいことだなと思います。

<中島主幹指導主事>

○今、手元で調べたところ、単位制高校の数は、令和2年度時点で、全日制で655校、通信制定時制を合わせると全国で2254校になります。もともと通信制定時制は単位制です。平成5年度から全日制にも拡大されて単位制の学校数は右肩上がりに伸びています。

<有坂主任指導主事>

○追加ですが、普通科、専門学科の他にもう一つ総合学科があり、総合学科はすべて単位制です。

<武田議長>

○条件とかいろいろ調べながら、地域の子どもたちに合ったものを考え、子どもたち選んでもらえるような、小・中・高を通した学びが続いていけばいいのかなと思います。中高連携について話す時間が今日はありませんが次回以降検討を続けていきたいと思っています。

<丸山委員>

○基本的なところの質問です。単位制を導入するとなった場合、設定する科目の単位数はどう決めるのですか。そして、設置する科目は多様で、白馬らしいものを入れていくというイメージでいいのですか。

<関校長>

○1単位は、50分授業で年間35回が標準とされていますので、活動内容と必要な時間数から各科目の単位数を決めることとなります。設置科目は、おっしゃるように多様なものを用意したいと思います。

<中村和彦委員>

○中学から通信制へ行く生徒が最近多いのは何故かと考えてみると、多様な支援を必要とする子どもが増えていることがまずあります。つまり子どもも多いので、個々の事情に合わせて学校がどこまで寄り添ってくれるかに関心が集まります。単に制度として単位制にすればいいというのではないと思いますので、支援の体制も大切にいただけると中学校側としてありがたいです。

<武田議長>

○スクールカウンセラーとかボランティアさんとかが学校に入っただけだとありがたいですね。

<中島主幹指導主事>

○ボランティアさんが入ることが有効であるなら、そういうことも検討できることだと思います。

<武田議長>

○時間が来ましたので、ここで、生徒のみなさんの発表に移りたいと思います。

## (6) 生徒による発表

3年「時事問題」授業選択者（今井結芽さん、熊岡優奈さん、横川奈々実さん、授業担当・堀川先生）

○「大糸線は高校生の通学手段であり、なくてはならない移動手段であること」から、廃線危機にある大糸線を高校生として何とかしたいということで「さあ、大糸線に乗ろう」のプロジェクトを考えました。

○大糸線の現状についてより理解を深めるために、小谷村役場、糸魚川市役所、JR西日本の合わせて4名から情報を得ました。小谷村の丸山さんによると平成7年の豪雨災害で急激に利用者が減少し、現在はピーク時の90%減になっています。利用者の少ない要因は、人口減少（少子高齢化）に伴う利用者減少や自動車の普及などが挙げられますが、廃線になると廃村につながる可能性もあります。

○そこで大糸線の現状を私たちの目で確認しようと思い、南小谷駅から糸魚川駅までのフィールドワークを実施しました。フィールドワークでは、大糸線の魅力ポイントを調査したり、乗車されているお客様に「乗車の目的」「大糸線への思い」「政策のアドバイス」についてお尋ねしました。また、糸魚川からの帰りは、各駅周辺の様子を調査しました。この調査によって大糸線の現状を一層理解することができました。また車窓からの美しい景色を堪能し、より廃線させたくないという気持ちが強まりました。

○利用者を増やすためには、まず多くの人に大糸線に興味をもってもら必要があります。乗車してみようと思ってもらえる方を増やし、最終的にはリピーターを増やし、ファンになってもらう方法を私たちが考えました。この「さあ、大糸線に乗ろう」プロジェクトは、ガイドブックの作成、大糸線モチーフキャラの作成、ゆるキャラの撮影会の3つから成り立っています。

○ガイドブックでは駅周辺にある私たちがお勧めするお店をピックアップして紹介しています。そこに地域で使える商品券を添付することでお得だと思えるようになっていきます。また、大糸線ファンになってもらうためにモチーフキャラは欠かせないと思います。2つあって、1つは「みなみちゃん」と「いとくん」です。南小谷と糸魚川の地名から取りました。もう1つは、小谷村特産の小谷漬けをイメージした「小谷漬男（おたりづけお）」と「小谷漬子」（おたりづけこ）です。ゆるキャラ撮影会は、実際にイベントを開催しようと考えています。大糸線に乗りながら、白馬村・小谷村・糸魚川のゆるキャラと撮影会を行うイベントで、このイベントの中で、先ほどのガイドブックを配布する予定です。このようなイベントを継続的に行うことでファンを増やしていきたいと考えています。

○以上の取り組みを行うことで少しでも大糸線のファンを増やし、持続可能な地域をつくるためにも「さあ、大糸線に乗ろう」プロジェクトを成功させたいです。

<武田議長>

○ありがとうございました。何か生徒さんにお聞きしたいことがありますか。

<丸山委員>

○実際に乗車されて、お客様にインタビューしたということですが、どんな答えが返ってききましたか。

<生徒>

○乗車目的としては、例えば旅行で温泉に行くとおっしゃっていました。

<丸山委員>

○どこの温泉ですか。

<生徒>

○姫川駅の近くとおっしゃっていました。

<中島主幹指導主事>

○実は、私は大糸線応援隊なのです。会員登録しています。テレビを見ていたら、廃線危機にある路線をどういうふうにしたらいいかというプロジェクトで大勢のお客さんが来たというのがありまして、皆さんの考えもそれに近いと思いました。ある所では自転車を乗せられるようにしたとか、トンネルに入ると電気を消して天井に映像を映したりとかしていました。番組は見ましたか。珍しい車両を導入するとかいろいろな工夫をされていました。私も電車が大好きなので、プロジェクトの時期が決まっていたら教えてください。

<堀川先生>

○3年生なので、出来れば卒業前に、小谷村と糸魚川市と相談して実施したいと考えています。

<中島主幹指導主事>

○関校長先生や藤森教頭先生に宣伝していただいでください。その時はぜひ私も参加したいと思います。ありがとうございました。

<相沢委員>

○各駅を取材されたという話ですが、それはどうやって行ったのですか。また、一番良かった駅はどこでしたか。

<生徒>

○糸魚川までは列車で、帰りは先生の車に乗せてもらって行きました。新しく改装した中土駅が良かったです。

<太田委員>

○大糸線は会社が違うので、南小谷駅での接続が悪いのです。待ち合わせ時間の工夫とか考えてもらえるといいですね。

<笹川委員>

○私も同じことを考えていて、接続がものすごく不便なので電車には乗らないという人もいるので、接続時間を楽しくすごせて、そこを目指してやってくる人がいるようなアイデアがあればいいなと思いました。個人的ですが、小谷漬けは最高だと思うので、「漬男」「漬子」のステッカーがあるといいなと思いました。

<相沢委員>

○今、外国の人がたくさんきているので、外国人向けに興味をわくような工夫もしたらいいと思います。

<柳田コーディネーター>

○今週から来年の大系線カレンダーが配布されているのをご存知ですか。12枚の沿線の素敵な写真で作られています。ぜひ観光局へもらいにいってください。

<武田議長>

○これまで難しい顔をしていた委員さんも、若い生徒さんが入ってくると賑やかになり明るくなりましたね。大事なところをこうした若い人たちが担ってくれているのはありがたいですね。これからもぜひ頑張ってください。(拍手)

<武田議長>

○それでは、今日のまとめとして教育委員会からお話をいただきます。

<中島主幹指導主事>

○皆様ありがとうございました。白馬高校の受検生も増えてくる見通しができてきているので、これからだと思いますが、白馬高校がさらに賑やかになればいいと思います。在学中にいろいろな対話の学びを経験したことが、卒業後白馬高校のために何かお手伝いをしてくれたり盛り上げてくれたりすることに繋がるのではないかと思います。常々白馬高校には熱い応援団がいて心強いなと思っています。また、単位制について校長先生からお話がありましたが、教育委員会も一緒に検討を重ねて行きたいと思っています。生徒の発表も地域の足を守るための斬新なアイデアで良かったと思います。個人的にも楽しみにしています。ありがとうございました。

<武田議長>

○ありがとうございました。さらに白馬高校が活動を続けていかれるように、そのために生徒たちがたくさん集まってくれるように、みんなで力を合わせていきたいと思います。これからもよろしく願います。以上で本日の会議を終了させていただきます。

(7) 閉会(藤森教頭)

○次回の予定ですが、今年度最後の第4回協議会を2月13日(火)に開催したいと考えております。日が近づいてきましたら改めてご連絡いたします。

○以上を持ちまして第3回運営協議会を終了させていただきます。ありがとうございました。